佐賀・鹿島市猟友会

若者に猟への関心を持ってもらおう

拠点の山小屋作り技術指導や鍋会

佐賀県の鹿島市猟友会では、若者に猟への関心を持ってもらうため、工夫を凝らした活動に取り組んでいる。2019年秋には、地域住民や会員らで力を合わせ、猟の〝拠点〟となる山小屋を完成させた。

もともと基礎だけ残っていた小屋の跡地を理解のある所有者から借り受けた。屋根や壁などは廃材を活用している。中に置いた家具なども地域住民が提供してくれたという。同会の事務局も兼ねており、捕獲用の罠や道具が保管されている。

事務局長を務める藤井信博さん（50）は「単身者向けアパートなどには、猟の道具を置くスペースがない。若い猟師を育てるには、こうした環境面の整備も大事だと考えた」と話す。

藤井さんらはこの山小屋で研修会を実施し、経験が少ない若手会員に技術やマナーを教えている。また、交流を深めるため、捕獲した猪などを使った鍋会を開くこともあるという。今年からはユーチューブで猟の様子を配信する取り組みも始めた。

同市では長年、猪などによる農作物被害に悩まされてきたが、約3年前からはアライグマによる被害が急増。ブドウやミカンなどを食い荒らすため、農家から悲鳴の声が上がっていた。昨年度の市内でのアライグマ捕獲数は約250頭で、前年度の2倍以上となった。

市から捕獲の依頼を受けた同会では、約65人の会員が各地に罠を設置。日常的な見回りや捕獲活動を行っているが、会員の平均年齢は65歳を超えており、人手不足が深刻化している。

藤井さんは「後進の育成に力を入れていかないと、5年後はさらに大変なことになる。行政や地域の方の理解と協力を得ながら、捕獲後の活用も含めた有害鳥獣対策を進めていきたい」と語る。

上約20坪・平屋建ての山小屋を前にする猟友会メンバー（左端が藤井さん）、左県内全域で被害が増えているアライグマ